

南ア月報

(2012年3月)

在南アフリカ日本国大使館

1. 内政関連

●警察庁舎不正リリースの公聴会開始

5日、ツェレ元警察長官の警察庁舎不正リリースへの関与に関する公聴会が、プレトリアで開始された。ツェレ元長官はこれまで一貫して関与を否定してきたが、2日目の公聴会では、ハミルトン・シェラ調達部部长より、同元長官よりリリースの取引を終えるための圧力がかかったとの証言があった。この後、本件の鍵となる証言者の証言が予定されていたが、病気を理由に公聴会が延期された。

●情報保護法案、公聴会で審議

9日、南ア議会上院の特別委員会は、是非が問われている情報保護法案に関する公聴会を開始した。トゥリ・マドンセラ護民官、ジョージ・ビゾス人権弁護士、バビ労働組合COSATU事務局長等、南ア社会の中でも影響力を有する人物が法案に反対する意見を提出した。議論の焦点は、公共の利益にかなう機密扱いの事項を公にしたジャーナリストや内部告発者を保護する部分が欠如しているという点、および被疑者が機密に属する情報とは知らなかった場合、被疑者の処遇はどうするのかという点に集まっている。

●モトランテ副大統領のパートナーへの汚職疑惑

11日、モトランテ副大統領のパートナーであるムチャリ氏が、360 Aviation社によるイランとの20億ランドのビジネスへの支援と引き替えに1億400万ランドの賄略を受け取ろうとしていたとの疑惑が、当地紙サンデータイムズ紙で報道された。モトランテ副大統領は、何者かがモトランテ副大統領をおとしめようとしている可能性を含め、マドンセラ護民官（オンブズマン）に対し、本件を調査するよう依頼した。同副大統領は、今年末のANC総裁選におけるズマ大統領の対抗馬とみられている。

●プレトリアの通りの名称、改名

27日、ラマゴバ・ツワネ市長は、市の施政方針演説を行い、プレトリアの名称改名については、ポール・マシャティレ芸術文化大臣に決定が委ねられている旨述べた。また、長年使用されてきたHans Strijdom St、Wueen Wilhemina St、Duncun St、Charles Stなどプレトリアにある27の主要な通りの名称変更についても言及した。

2. 外政関連

●フランスマン国際関係・協力副大臣の人権理事会ハイレベル・セグメント出席

2月27-1日、フランスマン国際関係・協力副大臣は、ジュネーブで開催された第19回国連人権理事会ハイレベル・セグメントに出席した。フランスマン副大臣は、スピーチの中で、南アは国連とともに経済的・社会的・文化的権利の実現のため努力していくと述べ、経済機関や経済大国は各々の義務を果たし、途上国がMDGsの目標を達成できる

ように支援すべきであると述べた。

●SADC閣僚評議会

ヌコアナ＝マシャバネ国際関係・協力大臣は、デビス貿易産業大臣等とともに、1－2日開催のSADC閣僚評議会に出席するため、アンゴラのルアンダを訪問した。2日には、ズマ大統領が来訪し、同会合に参加した各国代表との会談を行った。

●エブラヒム国際関係・協力副大臣エジプト訪問

2日、エブラヒム国際関係・協力副大臣はエジプトを訪問し、アフリカン・アジェンダ推進の文脈で両国関係のさらなる強化につき話し合った。

●ナイジェリア人の国外退去を巡る動き

2日、南アのORタンボ国際空港に到着したナイジェリア人125名が、偽のイエロー・カード（黄熱病ワクチン接種証明書）を提示したことを理由に国外退去を命じられた。その後、5日に南アからラゴスに到着した南ア人28名が書類の不備等の理由で国外退去処分となった。8日、南ア国際関係・協力省は、125名のナイジェリア人国外退去件につき、ナイジェリア政府に対して書簡にて謝罪した。

●スリランカ外相南ア訪問

5日、ピーリス・スリランカ外相が南アを訪問し、ヌコアナ＝マシャバネ国際関係・協力大臣およびエブラヒム国際関係・協力副大臣と会談を行った。

●ソマリアとの外交関係樹立

13日、当地訪問中のモハメド・ソマリア暫定政府（TFG）外務国際協力大臣が南アを訪問し、マシャバネ南ア国際関係・協力大臣と共同記者会見を行った。同会見では、両国が外交関係の樹立に合意したことが発表された。

●マダガスカルへの人道支援物資供給

13日、フランスマン国際関係・協力副大臣（マダガスカル担当大統領特使、SADCオーガン・トロイカ議長）は、サイクロンの被害に遭ったマダガスカルへ人道支援を届けるためマダガスカルに赴いた。フランスマン副大臣は、ラジャオナリヴェロ・マダガスカル国民暫定連合政府外相およびマアリム・タンザニア外務副大臣とともに、被災地を訪問し、米、毛布、医薬品等を配布した。

●AU8ヶ国アドホック委員会

17－18日、ズマ大統領は、ベナンで開催された元首級のAU8ヶ国アドホック委員会に出席し、AU委員長選挙のプロセス等につき協議した。同委員会は、引き続き同委員による協議を進め、特にガボン及び南アフリカ間の協議を継続していくことに合意した。同協議の結果は、マラウィで開催される7月のAU総会にてAU委員会選挙が実施できるよう、選挙特別委員会の次回会合に提出される。

●AU平和安全保障理事会

20日、ヌコアナ＝マシャバネ国際関係・協力大臣は、マリで開催されたAU平和安全保障理事会会合に出席し、リビア情勢がサヘル諸国に及ぼす影響等につき協議した。

●核セキュリティ・サミット

26-27日、ズマ大統領は、韓国で開催されたソウル核セキュリティ・サミットに参加した。ヌコアナ＝マシャバネ国際関係・協力大臣とピーターズ・エネルギー大臣が同行した。

ズマ大統領は、同サミットの機会を捉え、中国、韓国、スペインと首脳会談を行い、それぞれ政治・経済における二国間協力強化について協議した。

胡錦濤中国国家主席との首脳会談において、ズマ大統領は、中国向け輸出優先産品、及び南ア向け優先投資分野をそれぞれ10ずつ挙げ両国間の経済関係強化を提起するとともに、南アにおける大規模インフラ開発に関して中国に期待感を表明した。また、2012年7月に開催される第5回FOCAC閣僚級会合で南アと中国が共同議長を務めることに言及した。さらに、巨大電波望遠鏡SKAの南アへの招致活動について中国からの支持を要請した。

●BRICSサミット

28-29日、ズマ大統領は、インドのデリーで開催されたBRICSサミットに出席した。同サミットでは、新たな開発銀行の創設、およびBRICSの既存開発銀行間の協力を合意がなされた。サミットの締め括りには、共同宣言としてデリー宣言が発表され、開発銀行関連のほか、国際的財政機関の改革やアナン国連／アラブ連盟共同シリア問題担当特使の役割に対する歓迎が表明された。

ズマ大統領は、自身の声明の中で、明年南アで開催する第5回BRICSサミットに、BRICS首脳を招待したことを明らかにした。

3. 経済

<経済指標>

●物価上昇

南ア統計局によると、2月の消費者物価指数は、対前年同月比で6.1%の上昇となり、同1月の6.3%よりも低く、2月の予測値6.4%も下回り、公式インフレ目標範囲（3～6%）の上限に近い水準となった。また、物価上昇率が予測値よりも低くなったため、今年後半にかけて利子率が上昇する可能性は低くなった。昨年の物価上昇は、利子率に影響を受けない食料、燃料、電力価格が要因となっていた。

●経常収支

南ア準備銀行の四半期報告書によると、南ア経常収支赤字の対GDP比は2011年第3四半期の4.1%から第4四半期には3.6%へと縮小した。一方で、2010年（2.8%）に比べて2011年の経常収支赤字は3.3%と緩やかな上昇となった。2011年第4四半期に見られた経常収支赤字の縮小は、貿易赤字を相殺する程度の外国人向けの配当金支払いの激減が主な要因となった。配当金支払いの減少は、欧州経済危機下で証券投資家にとって南アが安全地帯となっているため、外国人投資家が配当金を南ア国内へ再投資していることに起因している。

●信用

南ア準備銀行によると、民間部門の信用は12月の6.1%から1月には7.3%に拡大した。信用の拡大は主に企業向け的大幅な信用拡大によるもので、家計の信用拡大は1月の対前年同月比では6.1%となり、クリスマスの出費があった12月の6.8%から

わずかに縮小した。ネドバンクのエコノミストは、世界経済と国内経済の先行きが不透明なことに加えて、規制強化、個人債務の上昇により、2012年の信用拡大は抑制されるとの見解を示している。

●自動車販売

南ア自動車製造業者協会 (NAAMSA) によると2月の自動車販売台数は、前年2月の53,033台から6.7%増となった。2007年以来の強い伸びが見られた1月の対前年同月比8.8%増に続く成長であった。アナリストは、2012年には南アの消費者の購買意欲が戻り、自動車販売台数の成長は6~10%になると予測し、安定した自動車価格、自動車買い替えサイクルの短期化、低金利などが消費者需要を刺激する要因となっていると指摘する。

●小売販売

南ア統計局によると、1月の小売販売は、対前年同月比3.9%増と12月の8.7%増に比べて減少した。1月の小売販売は6.5%の伸びが見込まれていたが、これを下回ることとなった。1月のひと月あたりでは0.6%減であり、2011年3月以来の急激な減少となった。12月の対前月比の小売り販売は1.4%の伸びであった。ネドバンクのエコノミストは、小売販売が予測値を著しく下回ったことは、消費者支出が勢いを失いつつあることを示唆していると指摘した。

<出来事>

●ロイヤル・ダッチ・シェルに調査を委任されたエコノメトリックスは、南ア・カール地域のシェールガスの埋蔵量は485兆立法フィートであると推測した。これは、南アの石油消費の400年分に相当する。同調査によると、推定埋蔵量の4%、即ち20兆立法フィートでも、それぞれ南アのGDPの800億ランドの増加、歳入の350億ランド増加、30万人分の雇用増加が見込まれる。埋蔵量がより大きな場合には、GDP成長は2000億ランド、70万人分の雇用創出が期待される。

●南アのフェロクロム生産者は、クロム鉱石1トンあたり100ドルの輸出税を課すことを政府に要請した。マラフェ・リソースの経営者は、同課税によりフェロクロム生産における南アのクロム鉱石の優位性を確保し、南アがクロム鉱石の輸出を最大限活用することができる」と述べた。南アは、世界のフェロクロム埋蔵量の72%を占める。中国のフェロクロム埋蔵量はゼロであるが、南アからクロム鉱石を輸入することでフェロクロム市場の占有率を2001年の10%から35%に引き上げた。

●南ア準備銀行の四半期報告書によると、2011年第4四半期の対南ア海外直接投資は187億ランドとなり、第3四半期の水準から28億ランド増となった。対南ア投資は、英国及び中国からの投資が主なものであり、そのほとんどが鉱山、通信、金融関連業界への投資であった。2011年の対南ア海外直接投資は420億ランドで2010年に比べて90億ランドの増加となった。一方で、2011年の資産投資は前年の1079億ランドに比べてわずか470億ランドであった。

●格付け会社スタンダード&プアーズは、南アのソブリン債の格付けをBBB+の「安定」から「ネガティブ」に下方修正した。同引き下げでは、高い失業率、その他の社会問題とい

う政策リスクが強調された。一方で、スタンダード&プアーズは12月に予定されているANC総会で、なんらかの急激な政策移行を予期しているわけではないとの見解で、ANCの中道派は党内外のポピュリスト的な期待に対して徐々に譲歩をしていくことになるとの見方である。

4. 広報・文化

●武道デモンストレーションの開催

3日、大使館多目的ホールにおいて、当地の各武道団体（居合道、空手、剣道、琉球古武術、合気道、柔道、弓道）を招待し、武道デモンストレーションを行った。本デモンストレーションは一般市民にも公開され、各武道団体は日頃の鍛錬の成果を300名近い観客の前で披露し、多くの喝采を浴びた。また、本デモンストレーションの様子は国営放送SABCでも放映された。

●日本映画上映

24日、プレトリア大学ビジネススクール（GIBS）において、大使館と日本研究センターが共同して行う日本映画上映の第1回目として、宮崎駿監督によるアニメーション「千と千尋の神隠し」を上映した。本事業は2012年の間、約2カ月に一度、同スクールにおいて行われる予定であり、次回は6月2日開催の予定である。

5. 警備・治安

●頻発するストライキ

南ア最大の労組COSATUは7日、Eトール（高速道路の有料化に伴う料金自動払いシステム）の導入に反対する目的及び派遣業の禁止を求めるため、大規模なデモ行進をヨハネスブルグの中心街で行った。この他にも各地で、電気料金引き上げに反対するデモ、ハウトレインバスの賃上げ交渉デモ等、各地で頻繁にデモが行われている。

ハウトレインバスに関わるデモでは、デモに参加しないバス運転手がけん銃で撃たれたり、バスに火炎瓶が投げ付けられる等の事案が起きている他、電気料金値上げに反対するデモが勃発した地域では、地元警察署が放火されるなど過激化する事案が相次いでいる。

Eトールシステムの開始は4月末から予定されているが、庶民にとっては高額設定となっているため、今後も過激化する恐れのあるデモの状況に予断を許さない状況である。

(了)